

東京高等地方簡易裁判所合同庁舎

TOKYO HIGH, DISTRICT AND SUMMARY COURTS OFFICE COMPLEX

所在地——東京都千代田区霞が関1-1-4

location——Tokyo

建築主——最高裁判所

owner——Supreme Court

設計者——最高裁判所事務総局経理局営繕課

architects——Building and Repairs Department,
Financial Bureau of the General
Secretariat of the Supreme Court

施工者——鹿島建設株式会社

contractors——Kajima Corporation

三井建設株式会社

住友建設株式会社

Mitsui Construction Co., Ltd.

Sumitomo Construction Co., Ltd.

竣工——1984年4月26日

completion date——April, 1984





正面外壁詳細 Detail of the front side.

建築概要
 敷地面積 72,435㎡
 建築面積 9,349㎡
 延床面積 136,081㎡
 構造 地下3階：鉄筋コンクリート造 地下2階～地上2階：鉄骨鉄筋コンクリート造 地上3階～塔屋：鉄骨造
 規模 地下3階 地上19階 塔屋1階
 仕上げ概要
 外部仕上げ 屋根：アスファルト防水軽量コンクリート押え 外壁：タイル打込みPC板 開口部：発色仕上げアルミサッシュ 熱線吸収ガ

ラス
 内部仕上げ 法廷 床：ビニールタイル貼り 壁：クロス貼り 天井：岩綿吸音板 事務室 床：ビニールタイル貼り 壁：PBペンキ仕上げ 天井：岩綿吸音板
設備概要
 電気 受変電：22KV本線予備線2面線受電6,000KVA×2台 非常用自家発電：1,250KVA×2台 蓄電池：HS密閉式鉛蓄電池1,500AH×1台(地下3階) 1,200AH×1台(18階)
 空調 熱源：ガス焼き蒸気ボイラー6.0TON/

H×3台(冷暖房用) 1.0TON/H×1台 0.5TON/H×1台(厨房用) 2重効用吸収式冷凍機(ガス焼き) 320USRT×3台(高層用) 600USRT×3台(低層用) 方式：高層(事務室) 各階ユニットファンコイル併用方式 低層(法廷) 各階ユニット可変風量方式 地下階は系統別単一ダクト方式
 衛生 給水：高架水槽による重力給水方式
 消火 スプリンクラー 屋内消火栓 消防隊専用栓 泡消火 不燃性ガス 粉末消火 消防用水(採水ポンプ使用)



中央ホール Central hall.



エントランスホール Entrance hall.



大会議室 Main conference room.



大会議法廷 Main collegiate court.



合議法廷 Collegiate court.

選評 近江 栄 林 昌二 吉成 武

近年超高層化によって変貌しつつある、霞が関官庁街の一角に完成した庁舎で、東京高等裁判所、東京地方裁判所、東京簡易裁判所および東京第一、第二検察審査会の合同庁舎である。

建築計画の基本は、地上19階建て、矩形の平面の中央に線状のコアを配置したもので、今日の標準的な事務所建築の形態を示すものと言えよう。しかし、下半分、正しくは地上9階、高さ40mほどまでの部分は台状に張り出されており、地上3階まではさらに一段張り出されているので、梁間方向では3段重ねの断面となる。このため、見掛けよりは「据わり」のよい建築となっている。

建物の周辺には植栽が施され、建て替えられる前の高等裁判所の外構の好ましい雰囲気再生しているが、雨の日一般市民のアクセスの問題など、全国の施設への影響の大きい中央官庁の建築としては、いま一步の配慮を望みたいところである。

この建築の眼目は何と言っても下半分の張り出しの理由たる、法廷の集中化、その機能の合理的な処理にある。合議法廷と呼ばれる大型の法廷と、単独法廷と呼ばれるやや小型の法廷の合計数は170に及んでおり、これだけの法廷を集中配

置した庁舎は、世界にも例がないといわれる。

法廷に対しては、原告・被告・証人、裁判官・判事、傍聴者と、それぞれ異なる性格の利用者が、相互に混じり合う不都合のおこることなくアクセスできることが望まれる。しかし、これほどの規模の法廷コンプレックスにおいてこの望みを果たすことは、至難のパズルを解くに似ている。これを見事に解いてみせたのは、さすが伝統に輝く最高裁（旧司法）営繕の実力である。すなわち、被告は車で直接地下に入り、専用の廊下によって目的の法廷に近いエレベータに達し、直ちに法廷に顔を出すという仕組みで、裁判官、傍聴者もそれぞれの通路、エレベータによってまことにスムーズに法廷にアクセスできるように設計されている。

この庁舎では、すべての法廷が窓なしで、人工環境化されていることは、壁の吃立する特異な外観にも表れている。人工環境化は裁判の運営の円滑化、効率化には有効な手法と言えようが、真実を「白日の下に」しようとする法廷の空間でさえ、人工環境化を当然とする今日の技術文明のありかたについては、深く考えさせられるものを含む建築である。

ともあれ、企画から設計、施工にいたるまで、今日の官庁建築の到達点を示す一つの建築がここに完成した。

REVIEW Sakae Omi, Shoji Hayashi and Takeshi Yoshinari

Built in the Kasumigaseki government district of Tokyo, where high-rise buildings have lately been increasing in number, this office building serves the needs of the Tokyo High Court, the Tokyo District Court, the Tokyo Summary Court, and the First and Second Public Prosecutor's Inspection Committees.

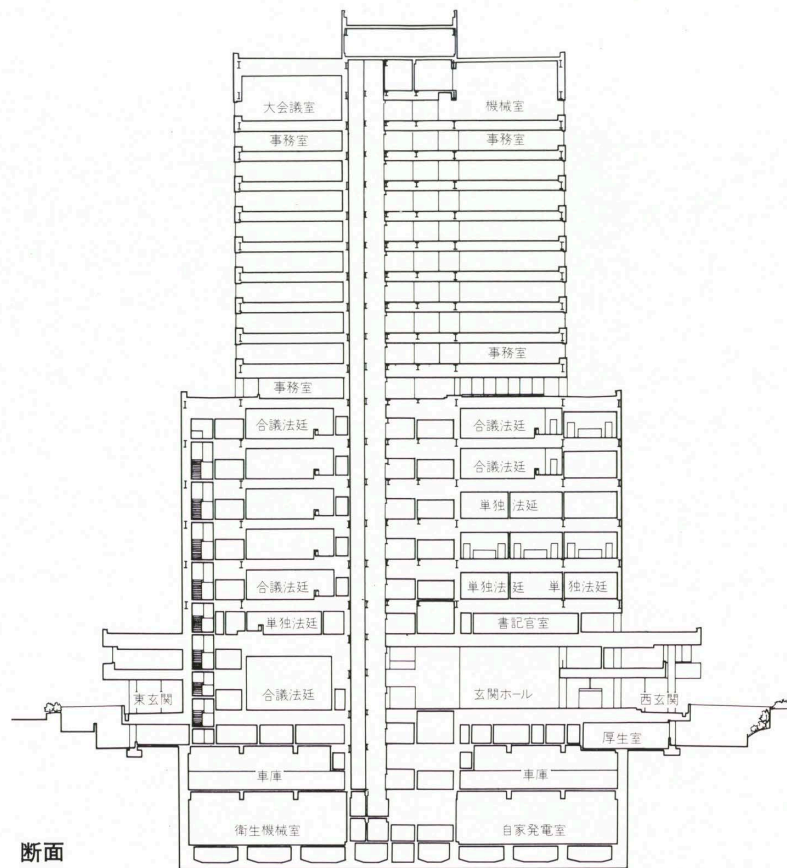
The basic plan—a rectangular, nineteen-story office building with a linear core—is standard for office architecture; but the actual stability of the building is greater than appearance might suggest because the lower 9 stories (to a height of 40 meters) project laterally to create a platform. The lowest three stories project still farther, and the sec-

tion in the span direction is in three layers, one on top of the other.

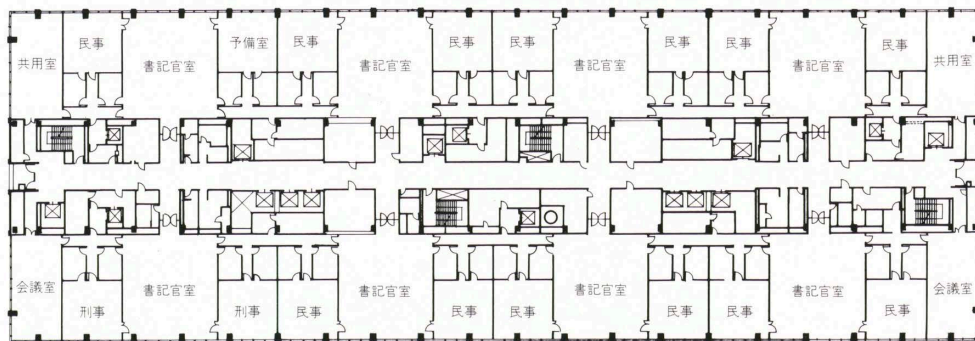
The most salient feature of the building is the concentration of courtroom spaces made possible because of the lateral projection of the lower levels. Unparalleled in concentration in the world, the building houses a total of 170 courtrooms including larger, conference courts and smaller independent courts. Access to the courtrooms is separate for judges, auditors, and defendants and is very smoothly managed. Defendants arrive by automobiles that drive directly into the basement. From there, exclusive corridors lead to the elevators closest to the suitable courtroom, where the defendant makes an imme-

diately appearance.

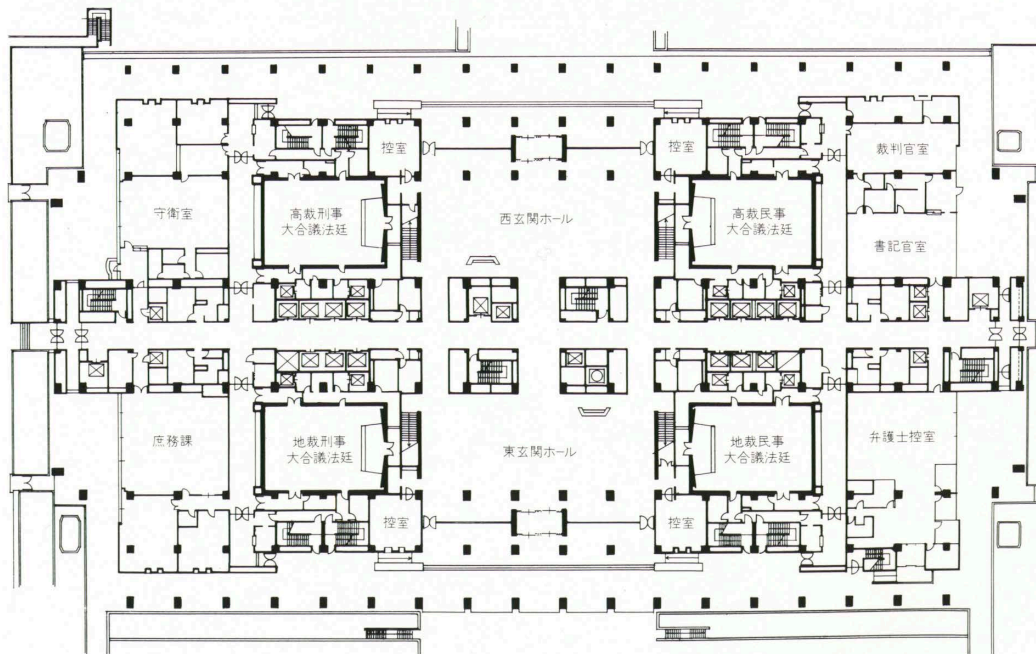
All of the courtroom spaces are windowless, as is suggested by the blank walls of the lower zone in which they are housed. Of course, a completely artificial interior environment makes court proceedings smoother and more effective. But this design nonetheless inspires profound reflection on a technological civilization in which even the work of justice—that is, to bring the truth into the clear light of day—is conducted in a man-made setting. Nonetheless, in terms of planning, design, and construction, the building represents the very best in the office-building architecture of today.



断面



事務階平面



1階平面 縮尺 1/1,000